

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 「千代田地区かわまちづくり」整備について		
水系 / 河川名 : 芦田川水系芦田川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 860	整備計画流量 : 2400m ³ /s	セグメント : 2-2
事業 : 環境整備	事業開始年度 : 平成30年度	
目標設定 : なし	段階 : C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な) : 水辺へのアクセス改善		
工法(主な) : 護岸整備、階段工の整備、管理用道路の整備、管理ルールの設定		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、施工管理、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

福山河川国道事務所では、「芦田川水系河川整備計画」において、人々が利用しやすい河川空間を整備するとともに、川らしい自然環境を創出することを目標としている。

また、福山市では、「福山市都市計画マスタープラン」において、芦田川の河川空間について、水生動植物の保全・保護など、良好な河川環境の保全・創出に努めるとともに、河川敷については、レクリエーション空間としての活用を促進することとしている。

さらに、芦田川に隣接する福山市営競馬場跡地に建設した総合体育館や公園と河川の一体的な利活用を図り、様々なイベントなどを通じて、市域を越えて魅力を発信することによって、福山ブランドとしての価値が高まることを期待し、「かわまちづくり支援制度」により「千代田地区かわまちづくり」計画を策定し、市と国が河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設整備等を通じて、まちづくりと一体となった水辺整備を行った。

<課題>

河川管理者として治水機能を損なうことのないような整備と、景観や利用についてニーズにあった整備をどちらも考慮する必要があった。



取り組み内容・対策例 (1/2)

1. スケートボードパークの設置

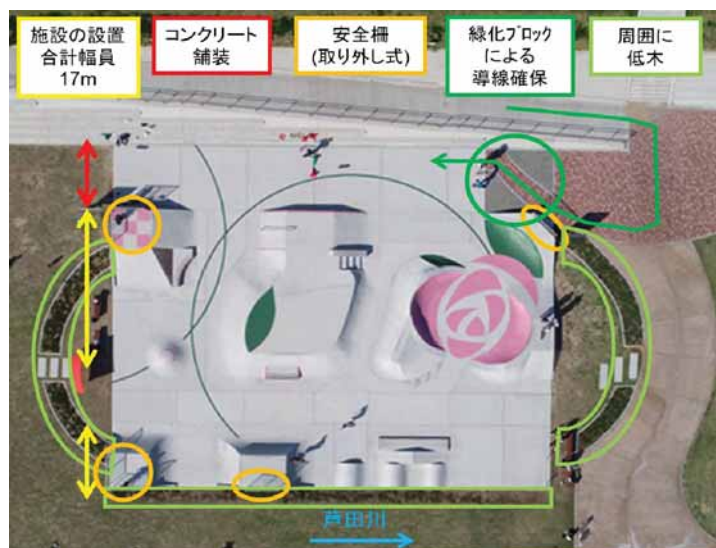
「若者が公園ではできないスケートボードを楽しめるようにしたい」との意見を受け整備する方針としたが、整備に当たって工作物の治水安全上及び利用安全上の観点から検討する必要が生じた。

<治水安全上の観点>

- ・高さ1.0m以下の固定式
- ・河積阻害を考慮し施設の設置合計幅員17m
- ・水の衝撃を極力受け流せるよう
川の流れに対して斜面・曲面を向ける構造
- ・堤防法尻からスケートボードパークの間を
コンクリート舗装(洗掘・流出等の防止措置)
- ・転落防止の安全柵について
1.0mを越えるものは取り外し式

<利用安全上の観点>

- ・転落等防止柵の整備
- ・高さ1.0m未満の施設で見通しの確保
- ・注意看板の設置
- ・誤侵入対策として緑化ブロックで導線の確保
- ・周囲に低木を整備することによる
誤侵入対策とスケートボードの飛び出し防止

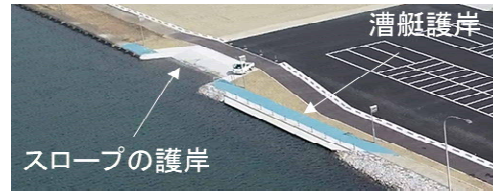
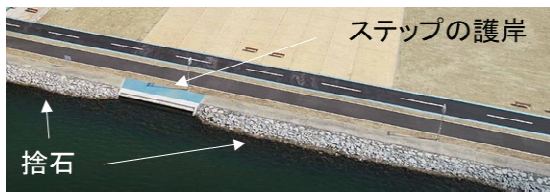


取り組み内容・対策例 (2/2)

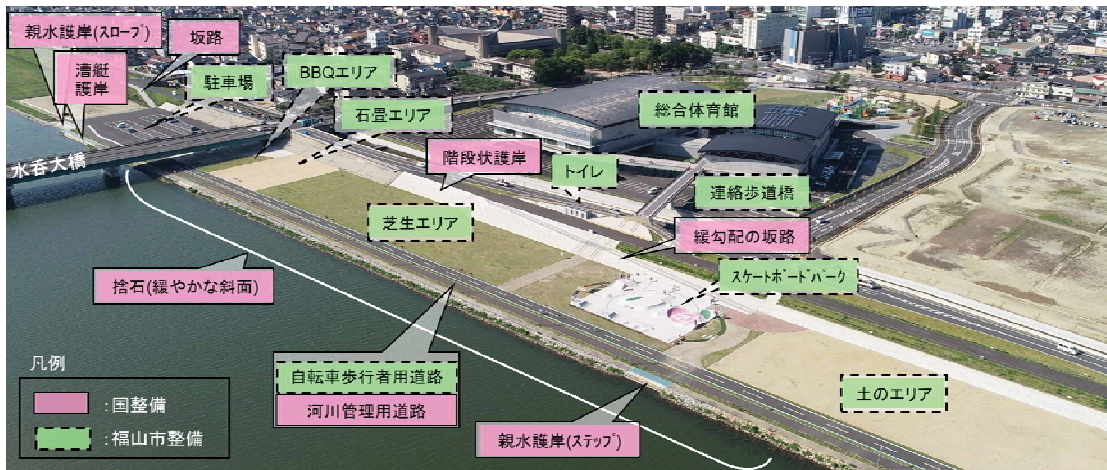
2. 親水護岸の整備

「カヌーなどが利用できるようにしたい」、「利用にあった水際の安全対策がしていると安心して利活用できる」といった意見を受けて親水護岸を整備することとしたが、河川管理施設として整備していく上で考慮する必要があった。

- ・捨石の整備 …… 一連の低水護岸として元々の低水護岸の勾配1:2.0より緩い1:3.0の勾配で整備。
- ・ステップの護岸 …… 安全性に配慮した水際部の形状として河床までの階段護岸があるが、当箇所はある程度水深があるため、全て階段状ではなく、階段状の全面は捨石として整備。
- ・スロープの護岸 …… カヌー乗り入れ場所として実績のある勾配1:6.0を採用。その全面一連の捨石を平場として管理用道路の線形をあまり侵さないよう川側に寄せて整備。
- ・漕艇護岸 …… ボートの接岸を行う関係で護岸から深さがあるため転落防止柵を設置し安全対策を実施。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針



↑ 整備後の写真



整備前の写真→

< 今後に向けて >

今回、隣接する総合体育館と河川管理施設を一体的に整備することとして「かわまちづくり支援制度」を活用した。水辺に親しむ施設としては勿論、芦田川的环境教育の場など、様々な利活用に福山市と協力し取り組みたい。

備考

問い合わせ先
電話番号